

平成 28 年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の平成 26 年 8 月号（第 67 巻第 8 号）から平成 28 年 7 月号（第 69 巻第 7 号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術学会賞」は獣医学術学会年次大会（石川）において発表された地区学会賞の中から、「獣医学術功労賞」は推薦のあった永年の功労の業績の中から、選考委員会において厳正に審査され、平成 28 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（石川）における授与式において、本会蔵内会長から本賞（賞状）が、協賛会社（日本全薬工業㈱、共立製薬㈱、日本ハム㈱）から副賞（研究奨励金 20 万円（目録））がそれぞれ受賞者に授与された。

表彰された受賞者及び研究業績の一覧は次のとおり。

平成 28 年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

獣医学術奨励賞：

「黒毛和種におけるヨーネ菌の胎子感染」

矢島りさ（宮城県仙台家畜保健衛生所），他
 〈選考理由〉 法定伝染病で問題となっている和牛のヨーネ病について、母子感染を証明し、母牛のヨーネ病感染の重症度により感染性が増すのか、または胎齢期でいつ頃から感染が始まるのかなど、遺伝子検査及び細菌学的検査に調べており、ヨーネ病のまん延防止のために感染症学上きわめて有用な論文であることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

獣医学術学会賞：

「黒毛和種牛で発生した胎膜水腫の原因変異の特定」

長谷川清寿（鳥根県畜産技術センター），他
 〈選考理由〉 本研究は、鳥根県内の黒毛和種牛で発生した胎膜水腫症例について、その疫学調査から 1 頭の種雄牛の関与を疑い詳細な検索を行ったもので、病理学的検査から胎子腎に異常を伴う疾患であると判定してゲノム解析を進め、本症の原因となる染色体領域の存在を明らかにした。本研究では、開発した遺伝子診断法に基づいて 2,000 頭以上を解析し、始祖牛を同種雄牛と特定し、かつ劣性変異であることを裏付けるなど最新かつ高度のゲノム解析技術を駆使している。本症の予防への応用も期待されることから、獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

獣医学術功労賞：

「牛ウイルス性下痢ウイルス感染症及びアカバネ病の診断と予防」

明石博臣（東京大学・名誉教授）
 〈選考理由〉 家畜ウイルス性伝染病の原因解明と診断・

予防技術の向上は、産業動物獣医療における重要な課題である。明石博臣氏の取り組んだ牛ウイルス性下痢症ウイルス及びアカバネウイルスによる牛の異常産及び致死性の高い粘膜病の発生原因について、長年にわたる家畜ウイルス性伝染病に関する研究成果は、産業動物獣医学の振興に著しく寄与するとともに、家畜ウイルス性伝染病の新しい診断・予防法の普及に大きく貢献した。また同氏は日本産業動物獣医学会副学会長として同学会運営に貢献され、獣医学術功労賞の授与がふさわしいと判断した。

【小動物部門】

獣医学術奨励賞：

「胆石を認め胆嚢切除術を実施した犬 50 症例における臨床検査所見と手術成績」

矢部摩耶（小出動物病院・岡山県），他
 〈選考理由〉 本論文は、一動物病院で過去に胆嚢切除の外科手術を実施した犬 50 例の胆石症に関する回顧的研究であり、丁寧なデータの集積と解析を行っている。診療の傍ら症例を蓄積して行く努力がうかがわれ、一般臨床家に提供する情報量も多いことから、獣医学術奨励賞として推薦する。

獣医学術学会賞：

「頭蓋内腫瘍性病変の犬 75 例における放射線治療成績と予後因子の解析」

細谷謙次（北海道大学），他
 〈選考理由〉 本研究は、国内における頭蓋内腫瘍性病変に対する放射線療法について、病変の種類と照射方法、治療効果と併用療法の関連性、症例の全身状態との関連性、予後因子などについて詳細に分析したものである。5 例と症例数も多く、今後放射線療法を実施する上で貴重な臨床情報を提供する研究であり、その臨床的並びに科学的意義が高く評価されたことから、

獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

獣医学術功労賞：

「小動物の超音波検査，特に心臓超音波検査（心エコー法）に関する研究」

萩尾光美（元宮崎大学・教授）

〈選考理由〉 萩尾光美氏は，獣医臨床分野における画像診断学の構築に尽力され，特に超音波検査法の診断技術を体系的に分類して，大学における獣医学教育と開業臨床獣医師に対する卒後教育に提供してきた。また，超音波検査法に関する著作も多く，日常の診療の中で画像診断学の貴重な情報源として多くの獣医師が利用してきた。このほかに，長年にわたり日本小動物獣医学会の九州地区学会長を務められ，小動物獣医学の発展に貢献されたことから，同氏への獣医学術功労賞の授与はふさわしいと判断した。

【公衆衛生部門】

獣医学術奨励賞：

「牛及び豚の疣贅性心内膜炎から分離された *Helcococcus ovis* の性状及び迅速・特異的同定法としての PCR 法の開発」

吉田桂子（神奈川県食肉衛生検査所），他

〈選考理由〉 と畜検査において牛や豚の疣贅性心内膜炎はよくみられる疾患であるが，その原因となる細菌種の同定は困難なことが多い。本論文では *Helcococcus ovis* が牛ばかりでなく豚の疣贅性心内膜炎の原因菌となることを明らかにするとともに，同定が困難な本菌の迅速同定法として特異的な PCR 法を開発した。その内容は公衆衛生並びに食肉衛生の分野においてきわめて有用であると考えられたため，獣医学術奨励賞に推薦する。

獣医学術学会賞：

「湯煮処理されたツキヨタケの簡易な理化学的推定鑑別法の検討」

原 智之（新潟県上越地域振興局）

〈選考理由〉 ツキヨタケは，他の食用キノコと形態による鑑別が難しく，誤食される機会が多いため，現場における本キノコの迅速・簡便な同定法の開発が急務となっている。本研究は，5%水酸化カリウム試液を用いた簡便な呈色試験法を利用し，湯煮処理されたツキヨタケでも鑑別可能としたものであり，多発するキノコ中毒の一つであるツキヨタケによる食中毒予防と原因物質の推定に貢献できることから，獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する。

獣医学術功労賞：

「食品安全向上に向けた食中毒起因細菌とカビ毒に関する研究」

熊谷 進（東京大学・名誉教授）

〈選考理由〉 熊谷 進氏は，国立感染症研究所の食品微生物部長，東京大学大学院農学生命科学研究科教授として食中毒起因細菌並びにカビ毒の研究に取り組み，多くの研究成果をあげるとともに優れた後進の育成を行った。東京大学退官後は，内閣府食品安全委員会の委員及び委員長の重責をこなし，わが国の食品安全の向上に尽力された。さらに，日本獣医公衆衛生学会会長も務め，本学会の運営・発展にも貢献された。このように，獣医公衆衛生分野における貢献はきわめて多大であることから，獣医学術功労賞を授与するにふさわしいと判断した。



平成 28 年度 日本獣医師会獣医学術賞協賛各社

左から，村上 博氏（日本ハム(株)品質保証部 安全試験室長），藏内勇夫（(公社)日本獣医師会会長），萩原 誠氏（共立製薬(株)専務取締役），小倉憲夫氏（日本全薬工業(株)専務取締役 営業本部長）



平成 28 年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞者

左から，矢鳥りさ，長谷川清寿，明石博臣，矢部摩耶，細谷謙次（代理），萩尾光美，吉田桂子，原 智之，熊谷 進の各氏